



まとまってわかりやすい解説書

児玉俊夫 監修, 武智秀夫・明石 謙 共著

「義 足」

結論を先にいわせていただくなら、この種の市販されている本の中では、初めてとっていいほどまとまってわかり易く書かれた本である。

切断者のリハビリテーションにあたって、義肢の性能がその成績を左右する重大な要素であることはいうまでもなく、ゆえにリハビリテーション医療関係者に対する切断・義肢の知識が強く望まれるわけである。

わが国ではこの方面における文献の大部分が外国書の翻訳という形で紹介・市販されており、内容もPT, OT 試験用のつけ焼刃的なものが多かったように思われる。その点本書は、著者が欧米を視察され、その良いところを随所に解説を加えて書いてあるので、直訳的なくさみもなく、内容の点でも、たとえばソケットの要点、アライメントの意義などについても

わかり易く解説してあるなど、テキストとしての要件をそなえている良書といえる。

次に、PT にとって特に必要な歩行の動力学、義足装着前と装着後の訓練、義足の点検について写真・図解入りでかなりの頁をさいており、これは現場で大いに参考になると思う。願わくば、機能訓練の項で患者に与えるべきポイントを示してあれば、さらに参考になったと思う。

リハビリテーション医療、特に切断者を対象とする場合は、関係者間のチームアプローチの重要性が一段と強調されるが、わが国では種々の事情でなかなかこの方面の仕事が進歩しないのが現状である。その点本書は、この仕事に携わる者のすべてに必要な事柄を一通り収めてあり、切断から義足の歴史、構造、構造、機能訓練までを系統的に述べてあるのでその点

も既刊書になかった特色といえよう。

PT には直接の関係は少ないが、外国の切断・義肢に関する図書を見ると、たいいて義肢製作工場的设计・内容などについても書いてあるので参考になる点が多いが、それらについても本書で付言されるとさらによかったのではないと思う。

わが国でも営々として切断者のリハビリテーションに取り組み、活目すべき成果をあげているところもあるが、全般的には未だしの感がある。その意味で本書が教本・解説書としての内容をそなえて世に出たことは、まことに時宜を得たものといえよう。(A 5, 頁 265, 図 212, 写真 94, ¥ 2,200, 医学書院)

(慈生会ベトレヘムの園リハビリテーション病院 渡辺昭二)